

体験型教育旅行・安全管理マニュアル

(平成28年4月1日現在)

いばらき グリーンツーリズム
(一般社団法人 常陸太田市観光物産協会)

目 次

I. 農林漁家民泊とは	
1 なぜ農林漁家民泊を行うのか	1
2 安全と安心、迎える心がまえ	1
3 民泊受入時のポイント	1～2
II. 体験時(屋外・屋内)の安全管理の徹底について	
1 田畑・里山における体験活動の危険と対策	3
2 山・森における体験活動の危険と対策	3
3 川・湖・海における体験活動の危険と対策	4
4 漁業体験における危険と対策	5
5 地震への対応	5
6 津波への対応	5
III. 衛生管理	
1 食中毒の具体的な予防方法	6
2 食物アレルギーへの対応	6～7
IV. 万一のトラブルに対して	
1 交通事故等緊急の場合	8
2 病気の場合	8
3 応急処置	8～12
V. 事故発生時の対応	13
VI. 主な関係機関連絡先	14
VII. 主な関係施設連絡先	15
VIII. 関係資料	16～22

I. 農林漁家民泊とは

1 なぜ農林漁家民泊を行うのか

昨今、学校等が実施する教育旅行（修学旅行・宿泊学習等）では、全体の約9割に体験学習が取り入れられています。中でも、農家や漁家における民泊体験のニーズは年々高まってきております。

農山漁村での暮らしが、「命の源である食を理解する」ことだけでなく、「暮らしの知恵」・「心の触れ合い」・「人と人との交流による地域の絆」等を学ぶ、良い機会であると認識されているため、これらは、短期間の滞在でも、高い教育的効果を生み出します。

2 安全と安心、迎える心がまえ

民泊体験は、ありのままの田舎暮らし体験を通じて、「自然との共生」や「心と心の交わり」を学ぶものです。

受入家庭の皆さんは、安心と安全への配慮は必要ですが、できる限り普段通りの生活を心掛けてください。

また、子どもたちをお客様ではなく、「我が子」や「孫」と思い接してください。ルールを守れない場合は、叱ることも必要です。

何事でもふれあう機会が多くなれば、いつしか心が通じあい、和んでいくものです。

3 民泊受入時のポイント

(1) 事前準備

- ア 玄関、洗面所、トイレ、浴室等は、適度な掃除や整頓を心掛けてください。
- イ 寝具は、シーツを含めて清潔なものをご準備ください。
- ウ 緊急連絡先を確認しておいてください。
- エ 対面式には、笑顔でお迎えください。

(2) 自己紹介をしましょう

- ア 受入家庭から
 - ・同居の家族の呼び方（お父さんお母さん等）、仕事、年齢、続柄等を教えてあげてください。
- イ 子どもたちへ
 - ・名前の読み方や呼んで欲しい名前、楽しみにしていることや不安なことを聞いてあげてください。

(3) 家庭でのルールを説明しましょう

- ア 生活スケジュール（調理・入浴・就寝・起床時間等）を、教えてあげてください。
- イ 使用できる部屋（トイレ・浴室・洗面所等）と家人の寝室の場所（夜間の緊急連絡のため）を案内してください。
- ウ 立入禁止場所・行動範囲・服装等について、何か指示がある場合には、教えてあげてください。

エ 持病やアレルギー等の確認を必ず行い、認識の共有を図ってください。

オ 緊急時避難口、通路、避難場所について、説明してください。

(4) 農作業や日々の作業を体験させてください

ア 草取りや石拾い等の農地整備や管理方法も、必要性を説明して一緒に作業してください。

イ 天候等の理由により、外での作業が難しい場合は、屋内での作業、農地農園の案内、農機具の説明の他、縄結い、障子の張り替えといった体験活動を行わせてください。

(5) 食事

ア 共同調理を行い、一緒に食べましょう。

イ 新鮮な食材を使い、熱を通した調理を心掛けてください。

ウ 地元の食材を使用し、レトルト・インスタントのカレーやハンバーグなどのおかずは避けてください。

エ 食器の出し入れや配膳、片付けをさせてください。

オ 農林漁業の苦労や喜びを、食事の最中に聞かせてあげてください。

(6) 受入中のその他注意事項

ア 内服薬は絶対に飲ませないでください。

イ 子どもたちの体調等を確認し、困った時は助けを求めるよう指示を与えてください。

ウ アルコール類は絶対に飲ませないでください。

エ タバコを吸われる方は、分煙してください。

オ セクハラにならないよう、言動に気をつけてください。

カ 子どもの個人情報や撮影した写真等は慎重に取り扱ってください。

キ 子どもたちの異変に気づいたら声かけをしてください。

(7) 良い思い出のために

ア 子どもたちだけになったり、テレビ漬けにならないよう、会話を弾ませるご配慮をお願いします。

イ 近所と一緒に散歩したり、地元の神社に参拝することも、子どもたちの良き思い出になります。農作業等が早く終わった場合には、是非実践してみてください。

ウ 一緒に写真を撮ったり、色紙の寄せ書きをしたり、それぞれ無理のない範囲で楽しみを持つことは差し支えありませんが、お土産を渡すことは必要ありません。

エ 外出する場合は、概ね 21 時前までとしてください。

(8) お別れ

ア 良かったことや普段の生活との違いを聞き、自分自身も、感心したことや驚いたことをお話ください。

イ 握手をするなど、最後のひと時をお過ごしください。

II. 体験時(屋外・屋内)の安全管理の徹底について

体験型教育旅行では、多くの体験活動（農作業や食事づくり等）を行うことから、事故が発生する恐れがあります。

しかし、それを気にし過ぎてしまうと本物の体験ができず、充実した活動の組み立ては困難になってしまいます。

危険を予測して対策をとり、事故を未然に防いでいきましょう。

1 田畑・里山における体験活動の危険と対策

刃物や機械を扱う場合は、安全の確保を最優先にします。

事 項	危険項目	対 策
農業機具	・ 鋭利な刃の農林業器具 (カマ、オノ、ナタ、ノコギリ他)	・ 安全な使い方を適切に指導 (例) ナタを持つ手に軍手をはめない ・ 周囲の状況への配慮
農業機械	・ 動力付き機械・大型機械 (草刈り機、わらきり機、チェーンソー、トラクター)	・ <u>絶対に使用しない、させない</u>
天 候	・ 熱中症 (熱射病・日射病)	・ 天気予報の確認と予測 ・ 定期的な休息 ・ 適度な水分の供給 ・ 子どもたちの体調観察と声掛け
	・ 落雷	・ 天気予報の確認と予測 ・ 体験活動の中止と安全な場所への避難
軽トラック	・ 軽トラックの荷台への搭乗	・ <u>絶対に行わない</u> (※大変危険で、道路交通法違反です)

2 山・森における体験活動の危険と対策

事 項	危険項目	対 策
登山道・遊歩道	・ 落石、転倒、滑落 ・ 道の崩落、決壊	・ 危険個所の回避 ・ 入念な安全の確認
天 候	・ 落雷、大雨、降雪 (※山の天気は変わりやすい)	・ 天気予報の確認と予測 ・ 早期中止、安全な退路の確保 ・ 雨具、防寒具の用意
動 物	・ 毒ヘビ、ハチ	・ 安全な避難方法の事前学習 ・ 応急処置用の薬や包帯等の事前準備

3 川・湖・海における体験活動の危険と対策

事 項	危険項目	対 策
水 温	<ul style="list-style-type: none"> ・ 温度の低さ (※子どもは低体温症を引き起こす危険性あり) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水温の確認 ・ 陸上での定期的な休息 (※寒冷による体温低下の防止)
川の流れ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水面と水中における異なった複雑な流れの発生 ・ 深みへのはまりや川底への引き込まれ ・ 水流の速さ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水深、水温、水質等の状況確認と、活動に与える支障の判断 ・ 複数の人間による監視体制の整備と最大限の注意 ・ 救助用具の配備 (※万が一の場合に備えて)
川 の 石	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水面近くの石、岩の滑りやすさ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちへの事前注意 ・ 活動範囲の制限
川の増水	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大雨の場合の短時間での増水や土砂崩れ ・ 上流での増水による下流での急激な増水 ・ せきの決壊による土石流の発生 (※一時的な水の引きは、上流でのせき止めの可能性あり) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 天気予報、現場の警戒警報等の確認 ・ 絶え間ない水位への注意 ・ 活動の中止と安全な場所への避難
湖	<ul style="list-style-type: none"> ・ 水深の深さ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ライフジャケットの着用 ・ 複数の大人による監視体制の整備 ・ 必要な備品の事前準備 (※万が一の場合に備え、浮き輪、ボート、レスキューロープ、ホイッスルなどを用意)
海の岩場	<ul style="list-style-type: none"> ・ 擦り傷、切り傷 	<ul style="list-style-type: none"> ・ マリンブーツ等の着用
海の生物	<ul style="list-style-type: none"> ・ クラゲ等 	<ul style="list-style-type: none"> ・ むやみに触れないこと ・ 危険生物の事前学習
アウトドアスポーツ	<ul style="list-style-type: none"> ・ カヌー、ラフティング等での水中落下、転覆 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ライフジャケットの着用 ・ 救命救助における有資格者へのガイドの依頼

4 漁業体験における危険と対策

(1) 荒天時の対応

使用海域の状況が次のいずれかに該当する場合は、活動の中止を検討してください。

- ア 平均風速 10m 以上のとき
- イ 瞬間風速 12m 以上のとき
- ウ 波の高さが 50cm 以上のとき

(2) 服装

波をかぶり濡れてしまうことがあるので、保温されやすく、動きやすい服装を着用するよう指導しましょう。

(3) 転落

ライフジャケットは必ず着用し、常に子どもたちの行動に目を配りましょう。

5 地震への対応

行政防災無線や地震速報等が発信された時点で、一切の行動を中止し、速やかに避難を開始してください。避難場所は、各地域の指定の場所とし、子どもたちの人数の確認を怠らないでください。

6 津波への対応

(1) 留意事項

- ア まずは高台まで避難し、二次的な対策として、より高いところへ移動してください。
- イ 浸水が始まったら遠方への避難は止め、近場の高い建物へ速やかに避難してください。

(2) チェックリスト

- ア 体験・宿泊施設が、地震による津波や土砂崩れの予想される地域にあるか。
- イ アに該当する場合、避難場所及び経路を決めてあるか。
- ウ 非常時の情報伝達方法が理解しあえているか。
- エ 避難先が分散した場合の連絡手段と待ち合わせ場所を決めているか。

Ⅲ. 衛生管理

体験型教育旅行の農家・漁家での受入では、共同調理が一つの学習です。受入家庭はケガや事故などと同様に、食品衛生についても、細心の注意を払うことが必要不可欠です。

食中毒等は適切な管理により防ぐことができますので、衛生的に食品を取り扱うよう心掛けましょう。

1 食中毒の具体的な予防方法

食中毒は、食中毒菌が要因となり発生するケースがほとんどです。

食中毒菌を「付けない、増やさない、やっつける」の3原則を守ることが重要です。

(1) 食中毒菌を付けない
ア 調理者は、石けんによる丁寧な手洗いやうがいを行い、清潔な衣服やタオルを使用すると共に、検便等による自身の健康管理を行わなければなりません。 イ 食材は流水で良く洗い、すぐに使用しない場合は、ラップで覆い、食中毒の原因菌を付けないように工夫しましょう。タオルの共有も避けましょう。
(2) 食中毒菌を増やさない
ア 食中毒菌に、増殖する時間を与えないようにしましょう。 ※食材を冷却することで、増殖できない温度環境（10℃以下、できれば5℃以下（生食用生鮮魚介類は4℃以下））を作ります。 イ 調理は、衛生的に手早く、喫食はできるだけ早く行い、それができない場合は短時間でも冷却保存を行いましょ。
(3) 食中毒菌をやっつける
ア 食中毒菌をやっつけるためには、菌では食材の中心温度が75℃以上、ウィルスではその温度が85℃以上に加熱することが求められます。食材を完全に加熱し、調理の際に使用するフキン等も加熱することで、その処置を行いましょ。

2 食物アレルギーへの対応

アレルギーの有病率は、国民の3割を超え、中でも子どもの「食物アレルギー」は多様化を極めてしています。

症状は、じんま疹、ショック症状、下痢、腹痛等と様々で、ひどい場合には病院へ搬送しなければならないこともあります。

厚生労働省では、食物アレルギーの原因となる原材料7品目を「特定原材料」として、全ての流通段階での表示を義務化すると共に、20品目を「特定原材料に準ずる物」として、その表示を奨励しています。

民泊体験では、健康連絡カード等で事前に情報の提供を行いますので、ご確認ください。

(1) 【参考】流通段階で表示の対象になる食物アレルギーの特定原材料(27品目)

特定原材料 (7品目)	卵、乳、小麦、そば、落花生、エビ、カニ
特定原材料 に準ずる物 (20品目)	魚介類：アワビ、イカ、イクラ、サケ、サバ
	肉 類：牛肉、鶏肉、豚肉
	その他：オレンジ、キウイフルーツ、クルミ、モモ、リンゴ、バナナ 大豆、マツタケ、ヤマイモ、ゼラチン、ごま、カシューナッツ

(2) 対応方法

- ア 該当となる食品を食べさせないこと。
 - イ そばアレルギーを持つ子どもの場合、そば殻の枕でも発症することがあるので、そういった環境を作らないこと。
 - ウ 該当となる原材料を含む加工品・調味料（しょうゆ、マヨネーズ等）などもご注意下さい。
- ※アレルギー症状には、かなりの個人差があります。担当者が事前に状況を調査し、特段の措置が必要な場合は、個別に各家庭へご連絡します。

IV. 万一のトラブルに際して

1 交通事故等緊急の場合

ア 負傷者の応急処置と救急車の要請

※受入家庭から保護者家庭への直接連絡は、絶対に行わないでください。

先生、学校、担当者（又は添乗員）に連絡し、その指示に従ってください。

2 病気の場合

ア 軽い病気又は怪我の場合は、担当者に連絡してください。

※いばらきグリーンツーリズム携帯：080-7736-2525

イ 担当者が学校と相談のうえ、病院搬送等の対応をとります。

ウ 緊急を要する病気又は怪我の場合は、救急車を呼んでください。

エ 食中毒等の場合は、保健所の指示に基づき対応を検討します。

オ 子どもたちが帰宅する場合は、先生方と相談のうえ、対応をとります。

3 応急手当

(1) 熱中症（熱射病、日射病）

熱中症とは室温や気温が高い中で、体内の水分や塩分（ナトリウム）などのバランスが崩れ、体温の調節機能が働かなくなり、体温上昇、めまい、体のだるさ、ひどいときには、けいれんや意識の異常など、様々な障害をおこす症状のことです。

家の中でじっとしていても室温や湿度が高いために、体から熱が逃げにくく熱中症になる場合がありますので、注意が必要です。

<症状と対処法>

種類 サイン	日射病	熱けいれん	熱疲労	熱射病
原因	・炎天下に長時間いる ・炎天下での作業	・高温多湿の環境での作業や運動 ・水のみ補給していた場合	・高温環境 ・水のみ補給していた場合 ・熱が体の中心にこもる(うつ熱)	高温多湿の環境下での作業や運動により、体温が上昇し、体温調節機能が失われたとき
症状	めまい、吐き気、嘔吐、脱力	頭痛、めまい、吐き気、嘔吐、体がつったような状態、けいれん、血圧低下、過呼吸	全身倦怠、頭痛、めまい、軽度意識障害、血圧低下	口渇、頭痛、嘔吐、全身倦怠感、意識障害、血圧低下、ショック状態※
体温	38℃以下	38℃以下	40℃以下	40℃以上
発汗	あり	あり	あり	なし
重症度	軽 重			
対処法	症状が現れたら、すぐに涼しい所で安静に寝かせ、送風や体表面の冷却を行い、スポーツドリンクや塩水などで水分補給した後、医療機関を受診しましょう（ただし、意識がなくなった場合は、水を飲ませてはいけません）。 自力で水分補給できない場合は、すぐに119番通報しましょう。			

※ショック状態とは、体内をめぐる血液が急激に失われ、血圧がひどく下がって命の危険をもたらす状態のことです。

(2) 貧血

女子の場合は生理が原因の可能性もあるので、周囲への気配りをよろしくお願いします。

<症状>

- ・顔が青い・立っていてふらふらし始める・手足が冷たい

<処置>

- ・すぐに座らせて着衣をゆるめてください。
- ・静かに寝かせて、膝の裏にバックなどを入れて、足を高く上げさせてください。
- ・寒気を防ぐため、服やシートをかけてください。

(3) 鼻血

日常と異なる環境に置かれることにより、のぼせや緊張などで鼻血を出す子がいます。「頭をそらす、首の後ろを叩く、仰向けにする」の3つ事項は、絶対に行ってはいけません。

<処置>

- ・小鼻を強くつまんでください。
- ・それでも止まらない場合は、鼻にティッシュなどを詰めて、再度小鼻をつまみ直してください。
- ・出血がひどい場合には、両目の間を濡らしたタオルなどで冷やし続けましょう。

(4) 目にゴミ / 突き目

上を向いての体験中などに、ゴミや小さな虫が目に入ってしまうことがあります。目をこすらせないことが大切なので、事前に説明しておきましょう。

<処置>

- ・目をこすらせないように、声をかけてください。
- ・水を入れたコップなどを目にあて、上を向かせ、水中でまばたきを繰り返させてください。
- ・ゴミが入った方の目を下にして、子どもを横に寝かせ、顔の下にタオルをあてがい、水筒の水（きれいな水）を目にゆっくり流しながら、まばたきをさせましょう。

(5) トゲが刺さる

抜くことが必要なので、トゲが見えにくい場合には、ルーペで拡大しましょう。

<処置>

- ・小さなもの場合は、針を焼いて消毒し、消毒液を含ませたガーゼで拭き、針でトゲを引き上げましょう。
- ・場合によっては、5円玉を利用することも有効です。患部に5円玉の穴の部分がかかるようにセットし、5円玉を押さえると、トゲが浮いて抜けやすくなります。抜き終わったら、患部を消毒し、半日程度キズバンを貼っておきましょう。

(6) 切り傷

小刀を使う木工体験、包丁を使う料理体験、鎌を使う稲刈り体験等は、刃物による切り傷が発生しやすいです。事前に、道具の使い方を指導しておいてください。

<処置>

- ・切った道具と傷口を確認すると共に、指先で止血しながら、患部を心臓より高く上げてください。
- ・ガーゼ又は清潔な布（ハンカチ）で、傷口を強く押さえてください。
- ・血がにじむ場合は、傷が心臓側に位置する動脈（※指先なら、指の根元、手首なら腕の内側）を強く圧迫し、効果を観察しながら止血点を見つけ、止血を行ってください。

(7) やけど（通常熱傷）

食事づくりや、野外でのキャンプファイヤー等で発症する可能性があります。水ぶくれを潰すことや、アロエなどの素人療法は絶対に行わないでください。

<処置>

- ・できるだけ早く冷やす・痛みがとれるまで冷やす（約30～40分が目安）
※軽度であれば、痛みが引いてからガーゼなどを当てて包帯をしてください。判断に迷ったら、軟膏や薬などは一切塗らずに、病院へ連れて行ってください。

(8) 骨折／ねんざ

最近の子どもは骨が弱い場合があるので、無理な体験活動はさせないようにしましょう。

<処置>

- ※ねんざと骨折は、一般的には見分けがつきにくいものなので、痛みがおさまらない場合は、外科医でレントゲンを撮ってもらいましょう。
- ・ねんざと分かれば、三角巾、テーピングなどで患部を固定してください。
- ・骨折の場合は、とにかく動かさないでください。出血がある場合は、心臓に近い部分を圧迫包帯で止血しましょう。
- ・寒気が起きる場合があるので、身体を冷やさないように、患部以外の場所に服などをかけて暖をとってあげましょう。

(9) ハチ、毛虫、ムカデなど毒虫刺され

自然界には、様々な生物が共生しており、注意を呼び掛けていても防ぐことが難しい場合もあります。危険性を常に呼び掛けておきましょう。なお、毒虫刺されの場合は、口での吸い出しは行ってはいけません。

<処置>

- ・患部の状態と原因を確認すると共に、周囲の子ども達にも体験活動を中止させ、安全を確保しましょう。
- ・刺した虫が確認できる場合は、刺さったとげや毒針をピンセット又は針で抜きましょう。

- ・傷口にポイズンリムーバーを当て、毒を吸引しましょう。
 - ・傷口を、清潔な水や石鹼でよく洗いましょう。
- ※ハチの場合は、抗ヒスタミン軟膏を塗り、患部を冷やしてください。

(10) 毒蛇咬まれ

里山や農作業体験では、マムシやヤマカガシなどの毒蛇に咬まれてしまうことがあります。体験させる現場を事前に確認して、危険回避に努めましょう。咬まれてしまった場合は、蛇がそばにいれば、種類を確認してください。

<処置>

- ・咬まれた子どもの周囲を確認すると共に、患部より心臓に近い場所をひもや三角巾で縛ってください。
 - ・咬み跡を見て、ヘビの毒性を簡易に見分けましょう。
 - ・傷口にポイズンリムーバーを当て、毒を吸引します。また、傷口を真水で洗い流します。
 - ・救急車を手配して、病院へ連れて行きましょう。
- ※ヘビ咬まれの場合は、毒が体内に回るので、できるだけ歩かせないようにしてください。止血している場合は、20～30分で止血帯を緩めてください。

(11) 救急車に通報する際の手順

緊急を有すると判断された場合には、次の手順に従って、救急車を呼びましょう。

ア 119 番へ電話

イ 来てもらいたい場所の住所又は大きな目印、患者の状態、性別、年齢、誰にどんなことが起きたかの順で、落ち着いて伝えましょう。

※消防署等が実施する救急救命講習の上級講習と A E D 使い方講習を受けておくことも効果的です。

(12) その他

次の応急措置用救急医療セット例を参考に、体験内容に沿って、各家庭にご用意ください。

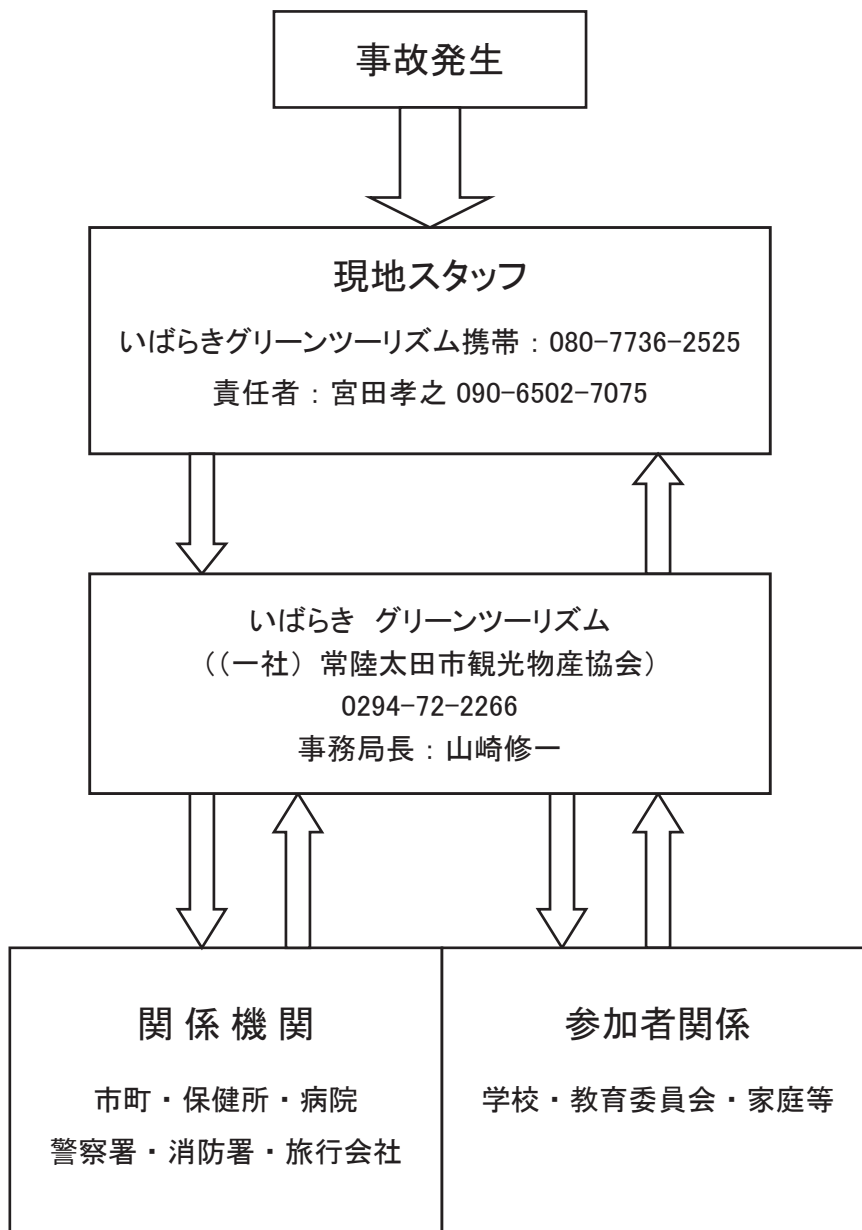
<input type="checkbox"/>	バンソウコウ	<input type="checkbox"/>	キンカン・ムヒ
<input type="checkbox"/>	とげぬき・ルーペ	<input type="checkbox"/>	消毒液・綿棒
<input type="checkbox"/>	医療用ハサミ	<input type="checkbox"/>	キズ軟膏
<input type="checkbox"/>	ピンセット・針	<input type="checkbox"/>	心肺蘇生用マウスピース
<input type="checkbox"/>	ゴム手袋	<input type="checkbox"/>	うがい薬
<input type="checkbox"/>	包帯・三角巾・ガーゼ	<input type="checkbox"/>	体温計
<input type="checkbox"/>	湿布薬	<input type="checkbox"/>	救急・救命ハンドブック

※あると便利な物

<input type="checkbox"/>	地域の周辺地図	<input type="checkbox"/>	使い捨てカイロ
<input type="checkbox"/>	記録用メモ用紙	<input type="checkbox"/>	懐中電灯
<input type="checkbox"/>	デジカメ	<input type="checkbox"/>	安全ピン
<input type="checkbox"/>	筆記具	<input type="checkbox"/>	笛
<input type="checkbox"/>	油性マジック	<input type="checkbox"/>	レスキューシート
<input type="checkbox"/>	タオル・ティッシュ	<input type="checkbox"/>	ビニール袋

V. 事故発生時の対応

安全対策を講じていても、事故によるケガや急病が発生する場合があります。そのような際は、下記の緊急連絡体制により、対応いたします。



VI. 主な関係機関連絡先

市町名	機関名	電話番号	住所	その他
日立市	日立総合病院	0294-23-1111	日立市城南町 2-1-1	
	日立医療センター	0294-36-2551	日立市鮎川町 2-8-16	
	日立市消防本部	0294-24-0119	日立市神峰町 2-4-1	
	日立警察署	0294-22-0110	日立市本宮町 4-17-1	
	日立保健所	0294-22-4188	日立市助川町 2-6-15	
高萩市	高萩協同病院	0293-23-1122	高萩市上手綱上ヶ穂町 1006-9	※たかはら地区からの最寄り
	内田医院	0293-22-2137	高萩市大和町 2-16	
	高萩市消防本部	0293-22-2293	高萩市東本町 3-11	
	高萩警察署	0293-24-0110	高萩市高戸 315-10	
	日立保健所	0294-22-4188	日立市助川町 2-6-15	
北茨城市	北茨城市民病院	0293-46-1121	北茨城市関南町関本下 1050	
	瀧病院	0293-42-1221	北茨城市磯原町磯原 2-305	
	北茨城市消防本部	0293-42-0119	北茨城市磯原町磯原 2496-1	
	高萩警察署	0293-24-0110	高萩市高戸 315-10	
	日立保健所	0294-22-4188	日立市助川町 2-6-15	
常陸太田市	西山堂病院	0294-72-5121	常陸太田市木崎二町 931-2	
	川崎病院	0294-72-1111	常陸太田市木崎二町 2040	
	大山病院	0294-72-6161	常陸太田市金井町 4810	
	大森医院	0294-82-3335	常陸太田市徳田町 474	※里見地区からの最寄り
	石川医院	0294-76-9011	常陸太田市下宮河内町 113-4	※金沙地区からの最寄り
	小林医院	0294-85-0010	常陸太田市町田町 2095	※水府地区からの最寄り
	常陸太田市消防本部	0294-73-0119	常陸太田市山下町 1693	
	太田警察署	0294-73-0110	常陸太田市木崎二町 1727-7	
	常陸大宮保健所	0295-52-1157	常陸大宮市姥賀町 2978-1	
常陸大宮市	常陸大宮済生会病院	0295-52-5151	常陸大宮市田子内町 3033-3	
	志村大宮病院	0295-53-1111	常陸大宮市上町 313	
	大串医院	0295-57-2411	常陸大宮市山方 928	
	高村外科医院	0295-57-2031	常陸大宮市山方 1117	
	常陸大宮市消防本部	0295-54-0119	常陸大宮市姥賀町 621	
	大宮警察署	0295-52-0110	常陸大宮市泉 445-6	
	常陸大宮保健所	0295-52-1157	常陸大宮市姥賀町 2978-1	
大子町	慈泉堂病院	0295-72-1550	大子町大子 856-1	
	保内郷クリニック	0295-72-0179	大子町大子 824	
	久保田病院	0295-72-0023	大子町大子 799	
	大子町消防本部	0295-72-0119	大子町池田 2626	
	大子警察署	0295-72-0110	大子町池田 2721	
	常陸大宮保健所	0295-52-1157	常陸大宮市姥賀町 2978-1	

※各市町における緊急協力病院等は、その市町ごとに対応が異なり、また、その日によっても違いがございます。それぞれの滞在ごとに、別途お知らせいたします。

Ⅶ. 主な関係施設連絡先

市町名	施設名	電話番号	住所	その他
日立市	たかはら自然塾	0294-39-5391	日立市十王町高原 396-1	
	会瀬青少年の家	0294-22-9535	日立市会瀬町 1-1-20	
	日立シビックセンター科学館	0294-24-7731	日立市幸町 1-21-1	
	日鉱記念館	0294-21-8411	日立市宮田町 3565	
	吉田正音楽記念館	0294-21-1125	日立市宮田町 5-2-25	
高萩市	NPO 法人里山文化ネットワーク	0293-22-3650	高萩市本町 3-153	
	茨城大学宇宙科学教育研究センター	0293-24-9516	高萩市石滝上台 627-1	
北茨城市	大津漁業協同組合	0293-46-1117	北茨城市大津町 121-55	
	漁業歴史資料館 よう・そろー	0293-46-8600	北茨城市関南町仁井田 789-2	
	マウントあかね	0293-30-0607	北茨城市華川町小豆畑 2747	
	ガラス工房シリカ	0293-42-3550	北茨城市華川町小豆畑 2747	
	野口雨情記念館	0293-43-4160	北茨城市磯原町磯原 130-1	
	天心記念五浦美術館	0293-46-5311	北茨城市大津町椿 2083	
常陸太田市	西山研修所	0294-72-0359	常陸太田市稲木町 1699-8	
	里美ふれあい館	0294-70-7131	常陸太田市大中町 3417-1	
	プラトーさとみ	0294-82-4221	常陸太田市里川町 863-35	
	古民家の宿「荒蒔邸」	090-3914-5337	常陸太田市大中町 1547	
	かなさ笑楽校	0294-76-9899	常陸太田市下宮河内町 820	
常陸大宮市	紙のさと和紙資料館	0295-57-2252	常陸大宮市舟生 90	
	ストームフィールドガイド	090-6505-2544	常陸大宮市野口 1151	
大子町	思い出浪漫館	0295-72-3111	大子町袋田 978	
	大子温泉やみぞ	0295-72-1511	大子町矢田 524-2	
	みらんど袋田	0295-79-0296	大子町袋田 383-1	
	大子おやき学校	0295-78-0500	大子町槇野地 2469	
	ゆばの里	0295-72-8551	大子町塙 734	
	奥久慈茶の里公園	0295-78-0511	大子町左貫 1920	
	奥久慈憩いの森	0295-76-0002	大子町高柴 4164-3	
いばらき グリーン ツーリズム	携帯電話	080-7736-2525	常陸太田市山下町 949-9	
	事務所	0294-72-2266	常陸太田市山下町 949-9	